

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「くわしく かこう」 教材名「しらせたいな、見せたいな」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使う（(1)オ）。経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる（B(1)ア・ウ）。文章に対する感想を伝え合って自分の文章のよいところを見付け、言葉がもつよさを感じ、思いや考えを伝え合おうとする（B(1)オ・学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）	①「書くこと」において、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ③「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（B(1)オ）	①進んで、知らせたい物をよく見て書くことを集め、学習の見通しをもって、見付けたことを家の人に知らせる文章を書こうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、学校で見付けた生き物や物をよく見て、色や形、大きさ、さわった感じなどを書き、家の人に知らせる文章を書く学習である。中心は学習指導要領第1学年及び第2学年のB(1)ア「経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること」で、言語活動はB(2)ア「観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動」に当たる。見る・さわる・においをかぐ・音を聞くという体の働きを手がかりにすると、1年生でも書く事柄を自分で集められる。集めた事柄から知らせたいことを選び、順序を考えて書くという手順は、第2学年で観察したことを記録する文章や、第3学年以降で相手や目的を意識して集めた材料を比べて分けたりする学習へつながる。これまでに学んだ句読点や助詞の「は」「を」「へ」の使い方（(1)ウ）を、まとまった文章の中で使う機会にもなる。生活科で育てている生き物や植物を題材にすれば、第3の1(7)の他教科等との関連も図れる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にします。まず、教室で思い出して書かせず、実物の前で、目・手・鼻・耳を使って見付けたことを、一枚のカードに一つずつ書かせる。次に、「くわしく」を子どもが使える問いの形（色は・形は・大きさは・さわると・においは・音は・何に似ている）で示し、友達どうしで質問し合って書き足す時間をとる（B(1)ア）。そして、文章は家の人に読んでもらうことを単元の初めに伝え、読み手を決めてから書かせる。書き終えた文章は、カードから選んだ知らせたいことが入り、文と文の続き方が分かるように書けている物を「おおむね満足できる」状況、大きさを身近な物と比べたり、様子を表す言葉を自分で選んだりしている物を「十分満足できる」状況の目安にする。生き物を扱う時は、手洗いと、動物や植物へのアレルギーの有無を事前に確かめる。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学校で見付けた生き物や物のことを、家の人に知らせるといふ学習の見通しをもつ。 ○教科書の例の文章を読み、どんなこと（色・形・大きさ・さわった感じなど）が書いてあるかを確かめる。	態①（行動観察）
	2	○知らせたい物（学校で育てている生き物や植物、学校にある物）を決め、なぜ知らせたいかを友達に話す。	
第2次	3	○実物を見て、色・形・大きさ・数・動きなど、目で見て見付けたことを一枚に一つずつカードに書く。	知①（観察カード）
	4	○さわる・においをかぐ・音を聞くなどして見付けたことをカードに書き足す。大きさは身近な物と比べて書く。	知①（観察カード）
	5 （本時）	○カードを友達と見せ合い、質問を受けて書き足し、いちばん知らせたいことを選ぶ。	思①（観察カード・行動観察）
	6	○選んだカードを、書く順番に並べる（はじめ：何について、なか：くわしく、おわり：思ったこと）。	
	7	○並べたカードを見ながら、文と文の続き方に気を付けて文章を書く。	
	8	○続きを書き、文章を書き終える。	思②（文章）
	9	○文章を声に出して読み返し、句点（。）、「は」「を」「へ」、くわしくする言葉を確認して直す。	思②（文章） 態①（読み返し）
第3次	10	○友達と文章を読み合い、くわしく書けているところを伝え合う。 ○学習を振り返り、文章を家の人に渡す。	思③（付箋・発言） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (5/10)

(1) 本時の目標

観察カードを友達と見せ合い、質問に答えたり実物を見直したりして、色・形・大きさ・さわった感じなど知らせるために必要な事柄を書き足し、いちばん知らせたいことを決めることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間までに書いたカードを机に並べる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「おうちの人が、見たことがなくても様子が目に浮かぶように知らせるには、どんなことを書けばよいでしょう」 【めあて】ともだちと カードを 見せあって、くわしくかきたそう。 〈予想される児童の反応〉 ・いろを かいた。 ・かたちを かいた。 ・さわった かんじも かいた。 ・まだ かいていない ことが ある。	・目・手・鼻・耳の絵を付けた質問の言葉カード（色は・形は・大きさは・さわると・においは・音は・何に似ている）を黒板に貼る。 ・家の人に読んでもらうことを、もう一度確かめる。
展開 (分)	3 先生のカードを例に、質問のしかたと書き足し方を確かめる。 ○「先生のカードに、どんな質問をしたら、もっとくわしくなりますか」 4 ペアでカードを見せ合い、質問の言葉カードを使って質問し合う。 5 質問されて答えたことを、カードに書き足す。答えられなかったことは、実物を見に行き確かめる。 6 書き足したカードの中から、いちばん知らせたいことに花丸を付ける。 ○「おうちの人に、いちばん知らせたいのはどのカードですか。どうしてですか」 〈予想される児童の反応〉 ・いろは なにいろですか。 ・おおきさは どれくらいですか。 ・さわると どんな かんじですか。 ・ちゃいろと しろの もようが ある。 ・わたしの てと おなじ くらいのおおきさ。 ・さわると ふわふわして あたたかい。 ・はっぱの うらは ざらざら して いる。 ・うごきが おもしろいから、これを しらせたい。 ・いろが きれいだから、これに する。	・質問は一度に一つずつにさせ、答えを聞いてから次の質問をさせる。 ・答えた子が、その場で一文をカードに書き足せるように、鉛筆を持たせておく。 ・書くのが苦手な子には、話したことを先生が短く書き取り、それを写させる。 ・大きさが言えない子には「手と比べると」「消しゴムと比べると」と、比べる物を示す。 ・早く終わった子には「何に似ているか」を書き足させる。 ・実物を見に行く時は、行ってよい場所と戻る合図を先に決めておく。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	7 二、三人が、書き足したことと、花丸を付けたカードを発表する。 8 振り返りを書く。 （型）「ともだちに きかれて、…を かきました」	・書き足した言葉に赤線を引かせ、自分で確かめられるようにする。 ・振り返りが書けない子は、口で言わせてもよい。 ・次の時間は、カードを並べて書く順番を決めることを伝える。 ◎思① 知らせたい物を見て見付けたことから、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（観察カード・行動観察）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から。右端に日付とめあて。その左に、目・手・鼻・耳の絵を付けた質問の言葉カード（色は・形は・大きさは・さわると・においは・音は・何に似ている）を縦に並べる。中ほどに先生の観察カードの例を拡大して貼り、子どもの質問で書き足した文を赤で書き込む。その左に「くらべる ことば」（～くらい・～より おおきい）と「ようすを あらわす ことば」の欄を作り、子どもから出た言葉を書き足していく。左端に花丸の付け方と、振り返りの型。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ



AI三重